

例 言

- 1 本報告書は、鳴門海峡の渦潮世界遺産登録に向け、平成 26 年度から 28 年度にかけての鳴門海峡の渦潮世界遺産学術調査検討委員会が実施した学術調査の検討成果を取りまとめたものである。
- 2 鳴門海峡の渦潮世界遺産学術調査検討委員会の委員、オブザーバー、学術部会の構成員は以下のとおりである。

委 員

中瀬 勲 (委員長)	兵庫県立人と自然の博物館館長 農学博士
上嶋 英機	広島工業大学工学部客員教授 工学博士
石田 啓祐	徳島大学大学院理工学研究部教授 理学博士
村田 明広	徳島大学大学院理工学研究部教授 理学博士
橘 俊光	公益財団法人兵庫県園芸・公園協会理事 兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 非常勤講師 博士 (農学)

オブザーバー

深町加津枝	京都大学大学院地球環境学堂准教授 農学博士
小舟 美帆	環境省神戸自然保護官事務所 自然保護官
村上 裕道	兵庫県教育委員会事務局参事兼文化財課長

学術部会

上田 萌子	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部 研究員
大平 和弘	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部 研究員
嶽山 洋志	兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科講師

目次

I. 鳴門海峡の渦潮世界遺産学術調査検討委員会	
1. はじめに	1
2. 委員会設置目的	2
3. 委員会委員等	3
4. 鳴門海峡の渦潮に関する学術的情報収集について	4
II. 学術調査検討委員会によるこれまでの検討成果	
1. 鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録における該当クライテリア	
1) 世界遺産について	5
2) 該当クライテリアの検討について	5
2. 鳴門海峡の渦潮	
1) 鳴門海峡の渦潮の発生メカニズム	7
2) 鳴門海峡の渦潮の特徴	10
3. 国内の主な海峡の学術的考察	
1) 主な海峡・瀬戸の潮流エネルギー賦存量と利用可能量	12
2) 鳴門海峡を挟む潮位および水位差の時間変化	12
3) 大畠瀬戸を挟む潮位および水位差と流速の時間変化	14
4. 鳴門海峡周辺の地形・地質	
1) 鳴門海峡の地形・地質からみた成因と現在	15
2) 鳴門海峡周辺の地層および化石	25
5. 鳴門海峡周辺の自然環境	
1) 海域・水産	37
2) 植生	40
3) 鳥類	46
4) 鳴門海峡周辺の生物多様性に関する既知情報	50
5) 大鳴門橋架橋事業における調査資料	51
6) 生活（鳴門海峡沿岸の漁業）	55
6. 類似資産との比較	
1) 類似資産（国内外の渦潮）との比較	58
2) 国内の類似資産	59
3) 海外の類似資産	62
7. 世界遺産登録申請書類に必要な記載項目と調査	
1) 世界遺産登録申請書類に必要な記載項目	70
2) 提出文書（素案）の作成	71
8. 世界遺産登録に必要とされる調査研究分野	77
9. 世界自然遺産登録に向けたロードマップの整理	78
III. 世界自然遺産登録に向けて今後必要な調査と取組	80